

住職の写真日記より【令和8年1月】

1月もまもなく終わり。2カ月以上帰省していた純正も1/14に京都に戻り、伝道布教課程の最終期になりました。雪も結構まとまって降り、例年並みの量になりました。施設に入っている母も元気そうです。今年もまた1年よろしくお付き合いくださいね。



12/31 除夜の鐘

昼・夜の部合わせて70名の参加でした。ここ数年は昼の方が多ようです。年を思い返し鐘を撞きました。



1日 元旦会のお参り

30名。今年は、帰省していた純正が導師を勤めご法話。カレンダーの言葉「大悲心」についてのお話。



1日 母と記念撮影

お正月なので一時帰宅。美味しそうにお餅を食べてました。調子が良かったのか私の事も分かったようです。



2日 今年もお年始に

総代の山田文雄さんファミリーが大勢で来寺、お参りの後、近況を語らいながら会食をしました。



10日 面白い本でした

昭和30年代の生活を紹介した本。自分の子供（昭和38年）の頃と重ね合わせてとても興味深かったです。



11日 皆さんお元気です

総代の山田光男さん宅の報恩講、新年会を兼ねてお勤めしています。私の父と同級生で91歳。お元気です。



14日 久米さん死去

ホントに名司会者でしたね。印象に残っているのはザ・ベストテン。黒柳徹子さんとの掛け合いが楽しかった



15日 本山のおとき

報恩講で振る舞われます。最後に頂いたのは20年以上前のお寺の団体旅行。国宝のお部屋で接待されます。



19日 天覧相撲でした

天皇ご一家が大相撲をご覧になるのは6年ぶりなんです。残念ながらこの日は横綱・大関全て負けでした。

坊守の独り言

1月16日親鸞聖人（90歳）ご命日
御正忌法要をお勤めしました。

この時期になると思い出す前坊守の兄、京極町光寿寺ご住職のストーリーを紹介。92歳でご往生されたご住職は90歳の時、お一人で京都西本願寺の親鸞聖人御正忌報恩講にお参りされました。京極町から電車を乗り継ぐこと4時間をかけて千正寺に到着し、翌朝の飛行機で京都に出発された出来事をこの時期になると思い出します。当時の私は何も感じませんでした。今、前坊守が90歳を迎え、我が父も89歳と光寿寺ご住職の年齢と重ね合わせてしまうのです。

物静かな佇まいで本を愛し、戦中は戦地にも赴き、戦後は亡くなるまで現役住職として法務に勤しみ、親鸞さまと同じ90歳で西本願寺へ「お礼参り」。激動の時代を生き抜き「生かしている命」を思うと「お参りせずにはいられない」のお心だったのではと察してしまうのです。会えませんでした。ひ孫さんも誕生されました。亡き人を偲び、この命に感謝するご法事、今月7回忌をお迎えします。